

総合資源エネルギー調査会基本政策分科会御中

武蔵野大学経営学部特任教授／一橋大学名誉教授 山内弘隆

第47回基本政策分科会は、都合により欠席させていただきます。同分科会に提出されている「再生可能エネルギー規制総点検タスクフォース」からの資料につきまして、以下の通り文書にて所見を提出させていただきます。

1. 「再生可能エネルギー最優先の原則」について

個人的見解として、このような原則がとられるべきことに同意いたします。しかし、その結果として電源構成において再生可能エネルギーがどの程度の比率になるかについては、実態に基づいて示されるべきと考えます。ご指摘のような、「諸外国と比べれば」という根拠のみでは納得的でないと考えます。エネルギー基本計画は「あるべき論」だけを述べるものではありません。具体的な根拠、積上げ試算等があればお示しいただければ幸いです。

2. 「公正な競争環境の原則」

公正な競争環境の確保は、エネルギーシステム改革を通じての基本的な命題です。電力は需要と供給の時間的一致が必要とされ、通常の財・サービスとは異なった市場の設計が必要です。このため、電力市場は、卸売市場から始りゲートクローズに至るまで、時間的な連続性を反映する形で市場が形成されています。また、需給の急激な変動に対して、調整電源の確保ために調整力市場を設けています。

市場が有効に機能するためには、いくつかの基本的条件が満たされる必要があります。本年年初の需給ひっ迫とスポット価格の高騰のケースでは、情報の不完全性、非対称性がその要因の一つと考えられます。このため、市場制度の改革としてこの問題を克服する対策が議論されているところです。ご提出いただいた資料において、「公正な競争環境の整備こそが、市場を通じた安定供給の大前提となる」とされていますが、どのような環境整備が市場を通じた安定供給に寄与するのか具体的にご説明いただければ幸いです。なお、「発電分離」をご指摘いただいておりますが、この施策が安定供給に寄与するものだとすれば、これについてもそのメカニズムを具体的にご教示ください。

最後に容量市場については、将来市場における供給量の確保として機能すると考えられます。再生可能エネルギーも含めて、大規模電源は懐妊期間が長いことから、現時点において将来時点での供給力を確保することが、将来時点での市場の有効性を確保するために要請されます。容量市場を凍結・再検討すべきというご主張ですが、不確実な将来時点での供給力確保について具体的にどのようなメカニズムを提案されるのでしょうか。

以上